東北大学

東北大学東北アジア研究センター・伊達市噴火湾文化研究所

第十回 学術交流連携講演会

◉東北大学東北アジア研究センターと伊達市噴火湾文化研究所は、二〇〇六年に学術協定を締結し研究交流を行っています

過去の災害を考古学的手法と文献史学的手法で探る

◉講師

伊達元成 氏

〔伊達市噴火湾文化研究所 学芸員〕

「亘理伊達家がアーカイブしている天変地異」

◉講師

永谷幸人 氏

〔伊達市噴火湾文化研究所 学芸員〕

「17 世紀の巨大噴火・津波とアイヌ民族の暮らしと災害」

2020 年

入場無料・事前申込不要

3月20日(金・祝)

14:30 ～ 17:00 (開場 14:00)

会場

東北大学百周年記念会館

川内萩ホール 2F 会議室

(仙台市青葉区川内 40)

◉ ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

◉ アクセス

地下鉄【ルート❶】東西線「国際センター駅」西 1 口より徒歩約 5 分（扇坂階段経由）。【ルート❷】「川内駅」南 2 出口より徒歩約 7 分。タクシー：仙台駅より約 10 分。

お問い合わせ

東北大学東北アジア研究センター事務室

TEL. 022-795-6009　E-mail. asiajimu@grp.tohoku.ac.jp

◉ 主催：東北大学東北アジア研究センター　伊達市噴火湾文化研究所

CNEAS

伊達市噴火湾文化研究所

過去の災害を考古学的手法と文献史学的手法で探る

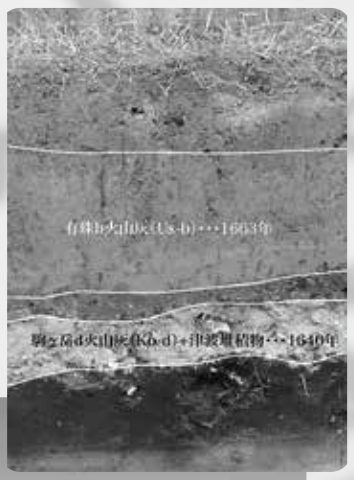
伊達元成（だて もとしげ）〔伊達市噴火湾文化研究所学芸員〕

亘理伊達家がアーカイブしている天変地異

亘理伊達家古文書資料は、仙台藩の藩政文書や伊達政宗からの手紙、書画類からなる資料群であり、現在は「だて歴史文化ミュージアム」に一括でパッケージされている。この中には亘理伊達家が蓄積した日記も含まれており、当時の出来事がダイジェストで記録されている。
たとえば、地震や火事といった人命や財産にダメージを与えた出来事だけでなく、奇怪な現象も記されているところは興味深い。
今回は、この亘理伊達家がアーカイブした資料から、どのような天変地異を記録したのかを探ってみる。圧倒的に多いのは火事の記録であるが、地震や噴火の記述もあり、未知の災害が明らかになるかもしれない。

資料調査の様子

地元アイヌ協会と共催で実施したシンヌラッパ（先祖供養）



有珠地区に残る災害痕跡

有珠山噴火に被災したアイヌコタン

永谷幸人（ながや ゆきひと）〔伊達市噴火湾文化研究所学芸員〕

17 世紀の巨大噴火・津波とアイヌ民族の暮らし

北海道噴火湾沿岸の伊達市有珠地区の地中には、アイヌ民族が暮らしたコタン（集落）の跡とともに、彼らの暮らしを襲った二つの大規模災害―1640 年に発生した北海道駒ヶ岳の噴火・津波と 1663 年に発生した有珠山噴火―の痕跡が厚い堆積物として残されている。わずか２３年の間に、数百年に一度というレベルの災害に二度も遭遇した彼らは、何を思い、どう乗り越えていったのか。
本講演では、17 世紀の有珠地区を舞台とした人々の暮らしに災害がどのような影響を与えたのか、近年の発掘調査の成果をもとに紹介する。

● 主な論文等：
永谷ほか 2014「北海道貝塚地名表」『日本考古学協会 2014 年度伊達大会研究発表資料集』
永谷幸人 2017「北海道噴火湾沿岸の縄文貝塚と集落の動態」『北海道考古学』53 輯
青野・永谷編 2018『北海道噴火湾沿岸の縄文文化の基礎的研究』

学術協定機関

伊達市噴火湾文化研究所

伊達市は、平成 17 年４月１日に全国に先がけて、市立の文化研究所を設立しました。当研究所が手がける仕事は、先史、古代文化、アイヌ文化、武家文化、近代遺産、さらには現代の絵画、工芸、写真、芸能から音楽まで、さまざまな文化の掘り起こしとその活用です。そのためには市内にある遺跡や有形無形の文化財、記念物などの保護と、資料の調査・研究を行います。
この過程で得られた成果は、文化・教育はもとより観光やまちづくりなどさまざまな分野に活用します。